

つどい・つながる・つちかう
Let's Commune Connect and Construct

未来への行動力
Our Kids' Ability to Act

豊中型国際教育

Toyonaka Style Global Education

豊中型国際教育推進の経緯

The Development of Toyonaka Style Global Education

平成18年度(2006年度)～20年度(2008年度)

豊中型国際教育の提案

Proposal of Toyonaka Style Global Education

1. 国際理解教育から未来の地域づくりの担い手育成の教育へ
From the education for international understanding to that for cultivating future leaders of regional development

2. 豊中における「国際」を総合的につなげるシステムづくり
Creating the systems to comprehensively link "international" matters within Toyonaka

3. 異文化を背景に持つ子どもたちが尊重される地域づくり
Creating the community where children with diverse cultural backgrounds are respected

ESDで育てたい生きる力

‘Power of Living’ raised by ESD

平成21年度(2009年度)～22年度(2010年度)

豊中型国際教育の実践とネットワークづくり

Implementation of Toyonaka Style Global Education and Networking

平成23年度(2011年度)～

豊中型国際教育の可視化と普遍化

Clarification and Application of Toyonaka Style Global Education

平成24年度(2012年度)～

豊中型国際教育で取り組みたい 持続可能な社会づくりと次世代の担い手育成

Establishing a Sustainable Society and Cultivating the Next Generation's Leaders which Toyonaka Style Global Education aims for

平成25年度(2013年度)～

豊中型国際教育でつながる世界 創ろう未来

Connect the World and Create the Future with Toyonaka Style Global Education

- 豊中市国際教育フォーラム「3か国こども会議」開催
H26.2.8(土) 大阪大学豊中キャンパス
基礎工学国際棟Σ(シグマ)ホール
『グローバル社会で生きていく力の素地となる、コミュニケーション能力や共生の資質等の育成を図る一環として、国内外の学校間で、環境問題を共通テーマに協働学習にチャレンジ。』

- 学識経験者
- 環境政策室
- 豊中市立幼稚園
- 国際教育推進中核校
- (公財)とよなか国際交流協会
- 豊中市立小中学校教育研究会
(多文化共生と在日朝鮮人教育/帰国児童生徒教育・国際教育)
- 豊中市在日外国人教育推進協議会
- 豊中市教育委員会

豊中市国際教育推進協議会

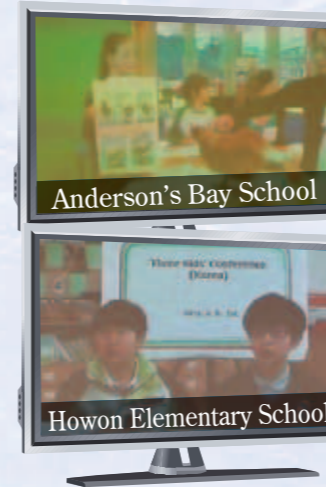
Toyonaka City Global Education Promotion Council



3か国こども会議 Three-country Kids' Conference

協働学習 [環境問題] の概要 Outline of the Collaborative Learning Program [Environmental Problems]

国 Country・市 City 学校名 School name	学習テーマ Research Theme
大韓民国 Republic of Korea 安養市 Anyang city 虎元 (ホウォン) 初等学校 Howon Elementary School 学年 Grade [5年生 5th 11yrs] カテゴリ: ごみ問題 Garbage	4種の食品を使った生ゴミの減らし方(食物の分解) Which ingredient can decompose food waste more effectively? ◆Key points: ・重層が水と悪臭の両方を減らすことができる。 ・あひるのえさとしてリサイクル Baking soda reduces smell and water. ◆今後について Suggestions for the next step : 生ゴミを出さない+出たゴミの分解+校内での循環! Reduce food waste + Decompose food waste + Recycled in School
New Zealand ニュージーランド Dunedin ダニーデン Anderson's Bay School アンダーソンズベイスクール 学年 Grade[10yrs] カテゴリ: 食糧問題 Food	持続可能性と食糧問題 持続可能なリデュース・リユース・リサイクル Sustainability and Food Sustainability- Reduce, Reuse and Recycle. ◆Key-points: ・人間による環境への影響を減らす。 ・持ちこたえる力 ・環境の長期的な維持 ・鶏の飼育法 Reducing, Endure, Maintenance The school's efforts are mainly in the school garden, such as keeping school hens ◆今後について Suggestions for the next step : いかに改善し発展させることができるか! Considering how to develop their activities
宮城県 Miyagi Prefecture 気仙沼市 Kesen-numa city 松岩中学校 Matsuiwa Junior High School 学年 Grade [生徒会 Board of Student Council 14yrs] カテゴリ: ごみ問題 Garbage	各家庭のゴミと市全体の比較と震災がれきの展望 Household and city-wide garbage comparison; earthquake rubble perspectives ◆Key-points: ・ゴミの分別は必要 ・ゴミ処理に多くの費用がかかる。 ・学校全体で取り組めるような方策 Research on household garbage and earthquake rubble/ Challenges in processing garbage ◆今後について Suggestions for the next step : 具体的な方策を検討、そして実行に期待! Planning and promoting activities based on their findings
大阪府 Osaka Prefecture 豊中市 Toyonaka City 第二中学校 Dai-ni Junior High School 学年 Grade [生徒会 Board of Student Council 14 yrs] カテゴリ: エネルギー Energy	フィフティ・フィフティ制度の有効活用について Beneficial use of the Fifty-fifty System ◆Key-points: ・「光熱水費還元制度フィフティ・フィフティ」への取り組み ・生徒一人ひとりの意識を変える。 ・フィフティ・フィフティの取り組みと生活目標との関連 Energy use reduction efforts / Increase awareness / Activity linking with their school mottoes ◆今後について Suggestions for the next step : フィフティ・フィフティの取り組みの継続とさらなる発展に期待! Continuation and further advancement of their activities



舞台上に第二中学校生徒 Dai-ni Junior High School



スペシャルゲストスピーチ Special Guests' Speech

心ひとつに進行する Promoted in cooperation with the local community

教育課程でおこなうESD ESD in School Curriculum

虎元(ホウォン)小等学校 李寶鈴(イボリョン)校長
Principal Lee Bo Ryeong of Howon Elementary School

メンテナンス リサイクル Maintenance Recycle

ノースロバーンスクール サイモングリーン校長
Principal Simon Green of North Loburn School



ESDの観点をもっと教育課程に!

Towards the Enhancement of ESD in School Curriculum

3か国こども会議は研究の積重ねのうえにあるもの

園田学園女子大学 堀田博史 教授
Professor Hiroshi Hotta of Sonoda Women's University

- 1 引き続き子どもと地域、自治体での連携、交流、共有
- 2 立ち止まり何が変化したのかを検証
子どもの意見を受け、大人が発展させていく
自治体から国等への働きかけ等
- 3 新たにクロスオーバーした取り組みの展開と共有



持続発展教育(ESD)を未来へ・・・ ESD for the Future

人や社会が持続的に発展して未来を開いていくために、豊中市は「つどう」、「つながる」、「つちかう」、そして「未来への行動力」をテーマに国際教育を進めています。UNESCOは、このような学びを次のように表現しています。

- Learning to know 知ることを学ぶ
- Learning to do なすことを学ぶ
- Learning to live together ともに生きることを学ぶ
- Learning to be 生きることを学ぶ

ESD: Education for Sustainable Development (持続発展教育)

私たちは、地球市民としてこれらの課題に向き合い、地球上に住む総ての人、そこから続く次世代の人、さらに続く未来の人が、平和で安心して暮らせる社会であるよう、「持続可能な社会の構築」にむけ、取り組むことが強く求められています。

ESDは、持続可能な社会をつかっていく、次世代の担い手を育てる教育の重要な柱です。国際社会のなかでは、目の前の子どもたちが、持続可能な社会づくりの主役となり、地球上の人々となつたり、同じ目的に向かって知恵を出し合うことが必要となります。そのためのコミュニケーション力等、資質の育成は、国際舞台で生き抜いていくうえで欠くことができません。

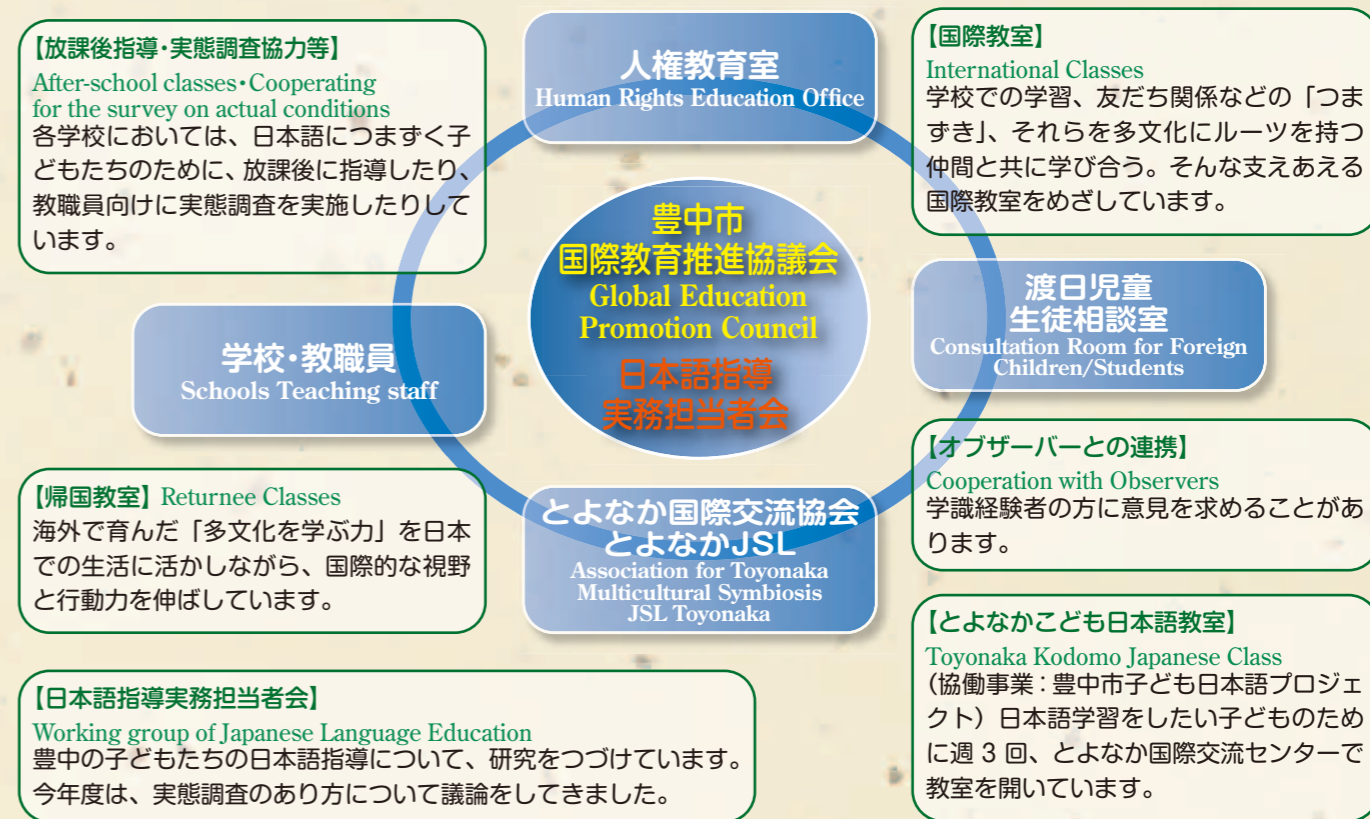
各教科等教育活動すべてにおいて、大人と子どもが、未来について一緒に考え、よりよく行動できるよう知恵を出し合えば、子どもたちは未来の担い手として自ずと将来何をしたいのか自覚していくでしょう。「習得」した知識・技能を「活用」していく過程にESDを取り入れ、「探求」する力を育てることがまさに「生きる力」となっていくはずで

※ESD実践ガイド冒頭挨拶文から引用

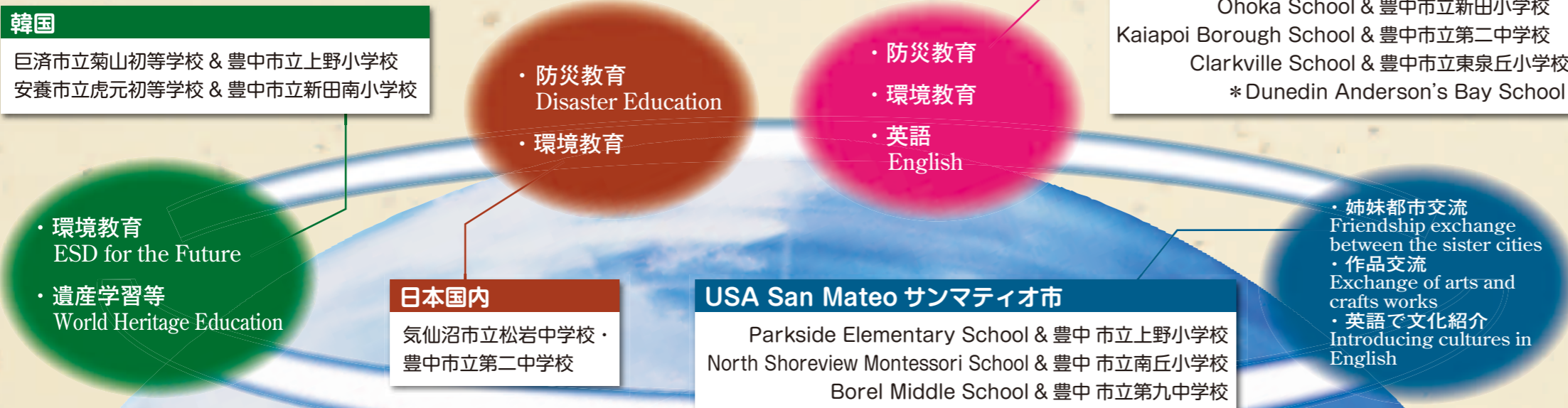
豊中市国際教育推進協議会では、平成23年度からESDを実践するためのガイドブックを作成し、「とよなかスクールネット」で配信しています。ガイドブックは、毎年、各学校での実践やカリキュラムを集め更新し充実を図っています。

日本語に課題のある子どもを支援するためのネットワークづくり Networking to support the JSL children

きめ細かな指導の充実のためには、日本語に課題のある子どもたちを把握することから始まります。
日本語に課題のある児童生徒の実態調査(上野小学校、桜井谷小学校で先行実施)



Friendship school 提携校



セーフティネットづくり

Setting up Safety Nets

異文化を背景に持つ子どもたちの支援

Support for children with different cultural backgrounds

- ◆(公財) とよなか国際交流協会
外国にルーツを持つ人の居場所づくり
「こども母語・サンプレイス」「多文化フェスティバル」等
- ◆豊中市在日外国人教育推進協議会
- ◆市教研「多文化共生と在日朝鮮人教育研究会」
ハギハッキョ・ハギハッキョキャンプ
韓国・朝鮮ことばとあそびのつどい 等
- ◆豊中市立上野小学校
うへのワールドミュージアム